

発行 長野医療生活協同組合

〒380-0814 長野市西鶴賀町1570 TEL(026)234-1476 FAX(026)234-1493

E-mail:chiiki@healthcoop-nagano.or.jp

ホームページ:http://www.healthcoop-nagano.or.jp

●現勢(2017年7月18日現在)生協組合員…6万4211人 出資金…15億8131万円

# みんなの医療

## 事業所

長野中央病院  
南長池診療所  
稲里生協クリニック  
老人保健施設ふるさと  
徳間デイサービスたんぼぼ  
三本柳デイサービスミント  
戸倉デイサービスゆいっこ  
グループホーム栗田ゆうゆう

グループホーム南長池れんげそう  
長野中央介護センターつるが  
在宅総合ステーションながの  
(ケアマネジャー・訪問介護)  
訪問看護ステーションながの  
つるがりハビリセンター  
ショートステイつるが  
高齢者住宅つるがの風

暑さにマケズ!  
核兵器禁止を  
高らかに

# 国民平和大行進 60回目の夏



核兵器廃絶を訴えて元気に行進(左から2人目が五味さん)

県内2つの基幹コースの一つ、信濃町から富士見町まで12日間『行進旗』を掲げて歩きました。各中継所では手を振りながら歩み寄り、肩をたたき合って互いの元氣と労をたたえ合う姿などに、60年余続けて来た運動の奥深さを感じました。

歴史ある運動ながら、地味ゆえか、高齢化の悩みもあるといえます。そんな中、医療生協の新入職員さん達が大勢参加してくれました。大雨の中、ゴウゴウと泥水が流れる犀川の脇を歩き続けて終点に着いた時は、全身びしょ濡れの若者達。大変でしたけどこれに懲りず、むしろこれを力に運動を続けていってほしいと願います。

1958年6月、被爆地広島から東京へ「ノーモア・ヒロシマ!ノーモア・ナガサキ!」核兵器のない世界を」と訴えた最初の平和行進が行われました。それから60年、途切れることなく広島・長崎へ国民平和大行進は続いていきます。今年も長野医療生協から、のべ145人が参加。県内通し行進者の一人は組合員の五味美穂子さんです。山梨県にタスキをつないだ今の気持ちを寄せてもらいました。

## 県内通し行進を終えて

五味美穂子

## 新入職員も歩きました!



7月4日大雨の中、県庁から信州新町まで歩きました。雨の勢いが強く、最後まで歩けるか不安になりましたが、高齢の組合員さんや同期の仲間と励まし合い、無事に歩きました。

途中、車から手を振ってくれる人、雨の中、家からわざわざ出てきて「がんばれ」と声をかけてくれる人がいて、平和への思いを感じることができた一日でした。

(職員・西村 佳大)



トイゴ広場であいさつする五味さん

行進が県内を通る中、世界が注目する核兵器禁止条約が国連の「交渉会議」で採択されました。皆が待ち望んだ瞬間です。日本のメディアもこのことだけは大きく報じました。

核兵器禁止を旗印に運動を続けてきた者に、「活動は無駄ではなかった」と喜びと充実感をくれました。山梨県への引き継ぎの時、新日本婦人の会の方が、「幾十年前、核兵器をなくそうと訴えながらも、現実には無理なことだろうと思いがながら平和行進をしています」と挨拶。条約採択の日を迎え、本当に感慨深いとの言葉に頭が下がりました。

ました。

とはいえ、国内の状況はやさしいものではありません。唯一の被爆国でありながら、日本はアメリカに追従して核を持つ大国とともにこの国連会議に参加すらしませんでした。引き継ぎ式でも「はらわたが煮えくり返るようだ」という発言を何度も聞きました。

沿道から手を振っての応援も乗せ、この行進はますます大きく、力強く、山梨、東京そして広島・長崎へと引き継がれていくものと信じます。

長野中央病院・南長池診療所・稲里生協クリニック

## 盆休診のお知らせ

8月14日(月)・15日(火)・16日(水)

緊急の場合は長野中央病院にご連絡ください

## 待合室

ポスト・トゥールースという言葉がありま。直訳すれば「脱現実」。日本ではあまり馴染みがありませんが、英国のオクスフォード英語辞典が2016年を象徴する言葉として選びました。「世論を形成する際に、客観的な事実よりも、むしろ感情や個人的信条へのアピールの方がより影響力があるような状況」と定義されています▼たとえば、英国のEU離脱の際、離脱派は「英国がEUに巨額の資金を拠出して」としていましたが、離脱決定後に撤回しています。また、米国ニューヨーク・タイムズが「トランプ大統領の1000の嘘」を1面に掲載し、事実を反した大統領の発言を浮き彫りにしました▼日本はどうでしょうか。情報にあふれた現代社会において、見聞きした情報が事実なのか、関心が薄れていないでしょうか。ただ情報を得るだけでなく、疑いを持つて事実を見極める。そんな姿勢が求められています。(吉)